飯舘村里山再生モデル事業の概要

モデル事業の目的

○地域住民の安全・安心に向けた環境づくり
○事業成果について原子力災害を受けた里山の再生に寄与

モデル地区概要

○モデル地区：村民の森あいの沢周辺（飯舘村深谷地区地内ほか）
○区域面積：約87haうち森林約72ha
（国有林約15ha、民有林57ha（村有林約4ha、私有林約53ha））

事業の内容

除染（H29年度）

○休憩所未舗装部分や散策道の表土削り取り・覆土、散策道法面の堆積有機物残さ除去、作業道の堆積有機物除去（施工面積約3.5ｈａ）を行いました。

除染実施前

除染実施後

森林整備（H29～R1年度）

○スギ・ヒノキ人工林の間伐（間伐率21%、7.31ha）、アカマツ天然林の更新伐（伐採率26%、1.36ha）などを実施しました。適切な樹木の密度となるよう、健全な生育が見込めない樹木を中心に伐採しました。伐採した樹木は一定の長さに切りそろえ、森林内に分散して配置しました。

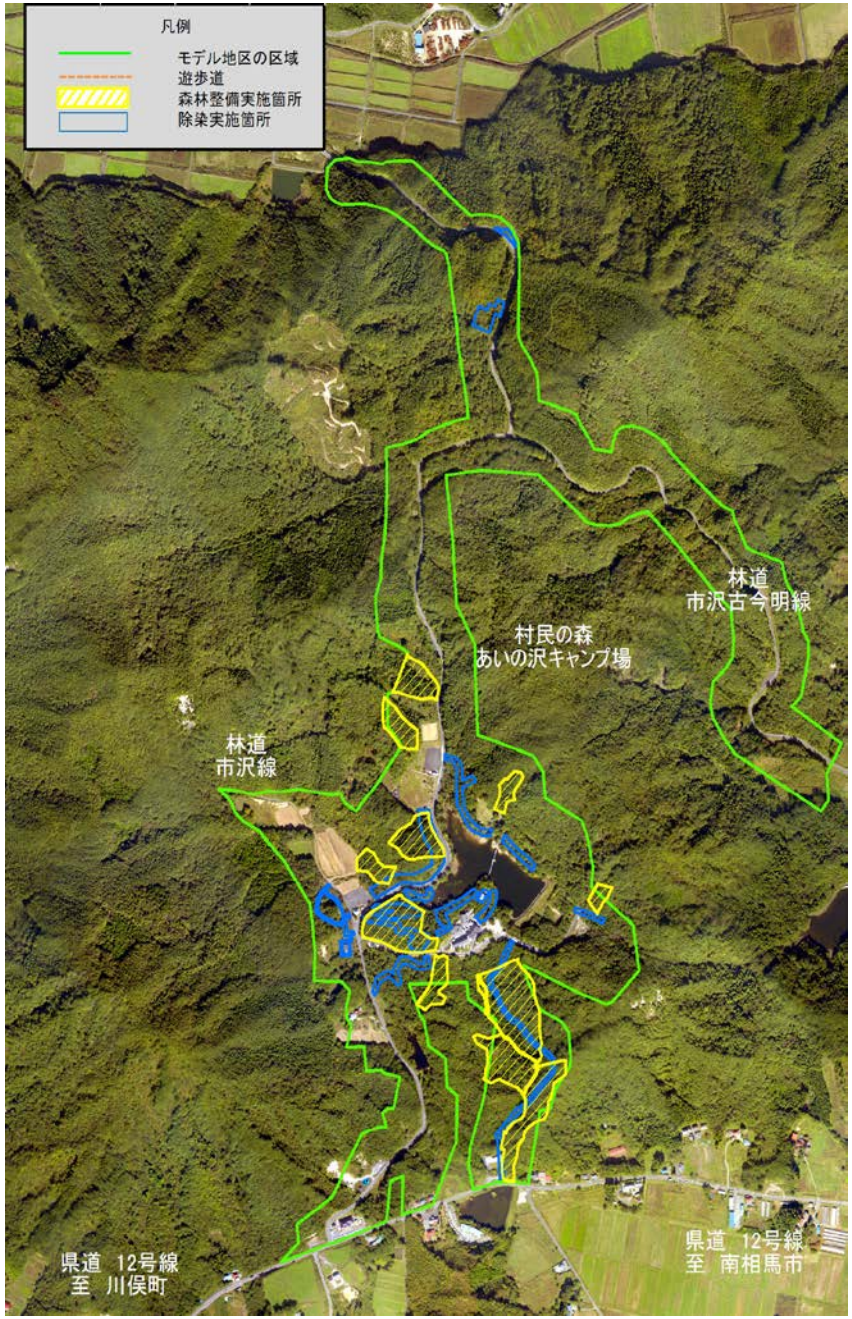
実施前

実施後

線量測定（H29~R2年度）

○H29からR2にかけて毎年モデル地区内の空間線量率を測定しました。
（メッシュ測定：48（メッシュ数）、遊歩道等の歩行サーベイ：約1,153m　等）
○空間線量率の測定にあわせて個人被ばく線量を測定しました。

＜モデル地区の概況図＞

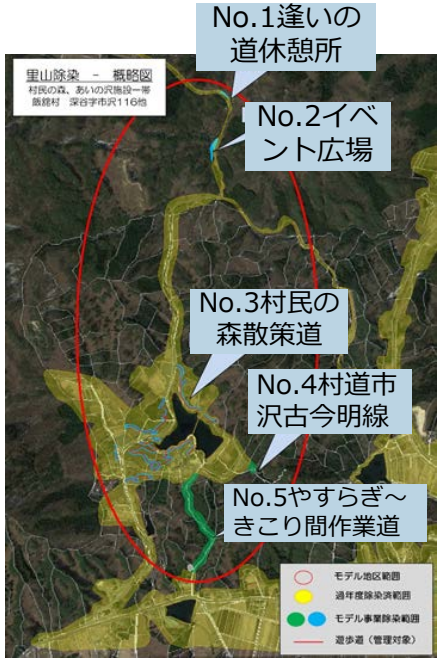


飯舘村モデル事業の結果

除染の結果

○空間線量率（高さ１ｍ）の平均値（単位：μSv/h）

	除染前	除染後	低減率（物理学的減衰率）
	H27年7月～H29年7月	H29年5月～H29年10月	
2箇所平均（No.1）	2.32	1.38	41%（1.0%）
13箇所平均（No.2）	1.69	1.50	11%（1.0%）
48箇所平均（No.3）	0.97	0.86	12%（0.0～1.8%）
21箇所平均（No.4）	1.76	1.26	28%（4.6～25.9%）
83箇所平均（No.5）	1.72	1.13	35%（4.6～5.6%）



森林整備の結果

○間伐等の森林整備により、地表面に光が届くようになり、下層植物の繁茂が見込まれ、表土の流出を抑制する効果や、根が土壌を保持する力が向上することによって、水源涵養機能、山地災害防止機能等の発揮が期待されます。

○林内の倒木や景観を損なう樹木を伐採・整理することによって、安全・安心・快適に散策できる森林空間に変化し、宿泊温泉施設の利用者が、散策等に利用する姿も見られるようになりました。

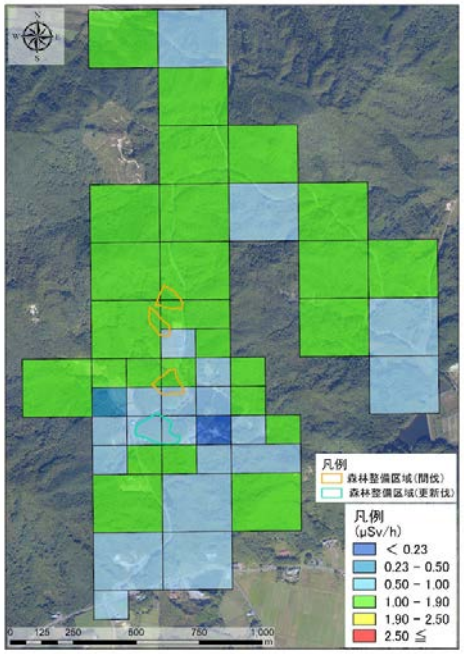
○今回の森林整備によって延べ363人日の雇用が生まれ、林業活動の継続が図られました（平成29年度人94人、平成30年度111人、令和元年度158人）。

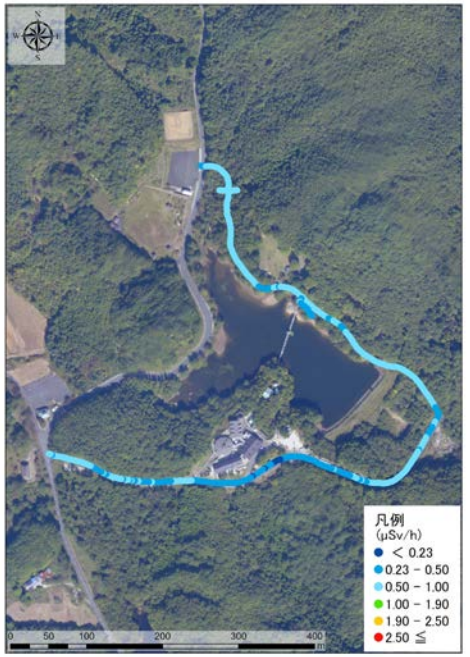
線量測定の結果

※空間線量率は実測値を基にR2年8月1日を基準日として算出

【メッシュ測定】
地区平均(地上1m)は1.03 μSv/h、最大値は1.62 μSv/h、最小値は0.22 μSv/h でした。

【歩行サーベイ】
平均は0.53 μSv/h、最大値は0.99 μSv/h、最小値は0.19 μSv/h でした。





【個人被ばく線量】
Ｒ１年度に村役場へのヒアリングを行い、想定される利用形態（滞在時間87分）を設定し、個人被ばく線量を測定しました。その結果、１回の利用に伴う個人被ばく線量は、0.0006mSv（0.6μSv）でした。

※胸部X線検査1回あたりの被ばく線量は0.06mSv（60μSv）

モデル事業の効果

○除染によって線量が低くなったことなどにより、地域住民の安全・安心に向けた環境づくりに寄与したと考えられます。

○除染と森林整備を一体的に実施することにより、快適な森林空間を創出し里山の再生に寄与したと考えられます。